

**オムロン株式会社 2014 年度 2Q 決算
投資家様向け説明会 質疑応答(サマリー)
(2014 年 10 月 28 日、東京)**

◆ 全社業績・経営・戦略関連

Q: 上期から下期にかけて全社の営業利益が 20 億円減少する理由は？

A: 理由は大きく三点。①為替前提の違い。下期の想定レートは 1 ドル 100 円、1 ユーロ 135 円としており、上期の実績レートと差がある。②固定費の積み残しがあり、それが下期にシフトする。③環境事業の市場環境の変化が下期に影響している。

Q: SSB とその他事業の環境事業に対する市場環境の変化による影響額は？

A: メガソーラー向けの事業は行っていないため影響は限定的ではあるものの、市場環境の変化として売上高で 40 億円程度を見通しに織り込んでいる。一方で、今後この市場変化をチャンスに変えたいと考えている。蓄電型のニーズも増えると考えており、今後その開発を進める。

Q: 資金使途は成長投資、配当、自社株買いの順番とのことだが、自社株買いを今後行うタイミングは？

A: 月商 1 ヶ月分、多くても 2 ヶ月分の手元現預金があれば、当面の運転資金は十分であると考えている。今回、手元現預金の水準を鑑みて自社株買いを行った。次回どのタイミングで自社株買いを行うかは回答できない。

Q: 企業価値向上表彰でファイナリストの 1 社として選ばれた理由はどう見ているか？

A: 昨年、一昨年は対象企業にも入っていなかったが、ROIC を構成する各ドライバーを KPI として設定し、全事業で ROIC 向上を目指す取り組みなどが評価されたと思っている。

◆ 制御機器事業 (IAB) 関連

Q: IAB は上期から下期にかけて増収が続くと考えて良いのか？

A: 増収する可能性はあると見ている。下期の想定為替レートを 1 ドル 100 円、1 ユーロ 135 円としているので、上期と単純には比較できない。また、ターゲット業界に対するマーケティング活動の効果も出てきている。

Q: IAB 中国におけるスマホ関連の割合はどのくらいか？

A: IAB 中国の上期は前年上期から 27%程度伸びているが、そのうち 1/3 くらいがスマホ関連の特需だと見ている。

Q: IAB 中国は期初時点と比較し景況感に変化はあるか？また中国の中小企業の状況はどうか？

A: スマホ特需を除き、景況感に大きな変化はない。SE の増強や提案力の強化など、我々の取り組みには手ごたえを感じている。中国のローカル企業に採用いただいているのが特徴だが、採用率が上がってきていると実感している。中小企業についても特に大きな変化はないと感じている。

◆ ヘルスケア事業 (HCB) 関連

Q: HCB の通期の営業利益が期初計画から 8 億円減少する見通しだが、NS 社の影響なのか？

A: NS 社の影響はある。NS 社は季節性があり、また、M&A 後の統合にもコストを割いているので、下期の営業利益は数億円のマイナスを見通している。NS 社は高収益の会社であり、来年度からは HCB の利益に貢献する。

Q: NS 社の買収価格等はどのように算出したのか？

A: 詳細は開示できないが、外部の専門家の力を借りながらきっちりとデューデリジェンスを行った。エスクロー等も含めて、しっかりとした交渉をしている。

◆ その他事業関連

Q: パワコンの価格低下などで利益率は悪化していないのか？

A: 価格競争などで利益率が悪化しているということではない。シェアを取りに行くために、若干の価格ダウンを織り込んでいる。開発投資を増やしている点も利益には影響している。
